

# 九州、霧島集酪地の現況

雪印乳業株式会社霧島工場

蒲田 衛

西南暖地における酪農の歴史は極めて若い。ことに霧島地区がこの世にデビューしたのは、高度集約酪農地として農林省から指定をうけた昭和三十年十二月三十日から、歴史は極めて浅く、その特殊な気象条件は乳牛にとつて時には不利益であるが、飼料作物の栽培という点では必ずしも不利益ではなく寧ろ有利である。従つて飼育管理の改善と飼料作物の生産が十分となるならば全くの酪農パラダイスが出現すると思われる。然し現実には幾多の問題がある。少くとも現段階より幾分でも伸展するために飼料作物の栽培現況を見ることとしよう。

## 飼料作物栽培の現況

新興酪農地にあつては特に草作りへの伸展を阻害するものは古い慣習と新知識の相剋であるが、封建性の強い当地区にもかかわらず逐次改善されつつある。この附近に普通栽培されている飼料作物といえ第一表のものが挙げられる。

最近の傾向としては、目立つてイタリアンライグラスの作付が増加してきており、これらの作付態勢は左の如き形がとられて

いる。

集酪地域決定三年後の姿としては並々ならぬ長足の進歩であり、栽培面では、1 混播が普及しつつある。例えばトウモロコシの単播より青刈大豆の組合せ、または燕麦とコンモンベッチの組合せ。

2 イタリアンライグラスの水田の裏作が、レンゲより数段優ることおよび乾草調整に当地区にとつて比較的容易にできること、収量の多いことから、従来燕麦の作付面積に喰い込みつつある。

といった、これらの事實は特に当地方の酪農の進展を裏書きするものである。しかし反面、飼料飢餓時期すなわち夏の播種から成育迄の間は、水田裏作が使用ないので一般に困却しており、また同期は

第一表

| 期間 | 飼料作物名                                |
|----|--------------------------------------|
| 春期 | レンゲ、青刈燕麦、コンモンベッチ、菜種、根菜類(苜蓿、三浦、桜島各大根) |
| 夏期 | 青刈トウモロコシ、青刈大豆                        |
| 秋期 | 甘藷及甘藷(る)                             |
| 冬期 | 青刈燕麦(又は実取燕麦)、コンモンベッチ(甘藷(る)、サイレージ)    |

労働時間からも家畜は放任せられ勝で、乳牛飼育上の大きな損失であるが比較的等閑視されている。この点については夏期間の青刈専用畑を設けるとかあるいは畦畔の草生改良、さらにまた山野草生改良など、今後の飼料生産場所に注目しなければならぬ。また牧草に関する智識に乏しく例えば、クロバアについてその適地適作の品種の選定もせず無批判に栽培し、一方的に可否を即断している傾向が強い。すなわち石灰の使用も不足、かつ乾燥しすぎる土地に栽培するなど栽培技術の不足が今後の残された問題である。

毎年一月、区内自給飼料共進会を集約酪農推進協議会が主催し、県および民間団体が挙げて協力し、成果をあげているが、本年の自給飼料共進会と昨年のそれを抜萃して

### 昭和32年度共進会 飼料作物1等1席(西諸県)

住所 小林市 氏名 上野 義 貫  
 作物名 イタリアンライグラス、ラデノクロバーの交互作  
 反収 1,250 貫(4,688 kg)  
 作物名 イタリアンライグラス、燕麦の交互作  
 反収 1,450 貫(5,438 kg)  
 播種期 9月下旬~10月上旬  
 施肥 (反当) 堆肥 500 貫(1,825 kg) 硫酸 1 貫(3.75 kg) 牛尿 7 回  
 追肥 加里 2 貫(7.5 kg) 石灰 70 貫(263 kg)



| 作物      | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    | 反 収 |                   |
|---------|----------------------------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-------------------|
|         | 10月                        | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |     |                   |
| 大豆(刈用)  |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,000 貫(3,750 kg) |
| つる(サイロ) |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 600 (2,250)       |
| 生いも     |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 600 (2,250)       |
| テオシント   |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,300 (4,880)     |
| スーダン    |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,200 (4,500)     |
| 落花生     |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 650 (2,440)       |
| 燕麦      |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 700 (2,630)       |
| 大 根     |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,800 (6,750)     |
| レ ー フ   |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,200 (4,500)     |
| 燕 麥     |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,200 (4,500)     |
| コンモンベッチ |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 800 (3,000)       |
| レンゲ     |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 1,300 (4,880)     |
| イタリアン   |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 600 (2,250)       |
| 甘 ら ん   |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     | 600 (2,250)       |
| 生 草     |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |                   |
| わ       |                            |     |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |                   |

みると次の如き模様である。

飼料作物栽培状況の一例

昭和 32 年度共進会 飼料作物 1 等 2 席 (西諸県)

住所 野尻町 氏名 溝尻 三芳  
 作物名 ラデノクロバー、イタリヤンライグラス、ベルニアルライグラス  
 反 収 1,200 貫 (4,500 kg)  
 播種日 10 月 3 日  
 施肥 (反当) 堆肥 600 貫 (2,250 kg) 硫安 8 貫 (30 kg) 燐酸 8 貫 (30 kg) 加里 2 貫 (7.5 kg) 石灰 基肥 20 貫 (75 kg) 追肥 15 貫 (56.3 kg)



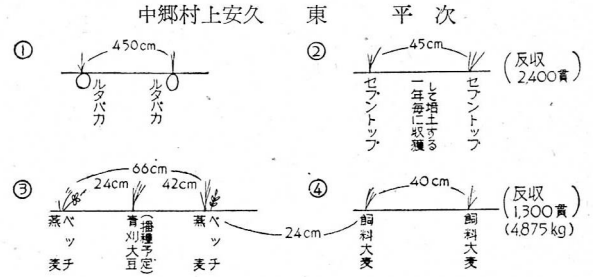
昭和三十三年共進会 飼料作物 1 等 2 席 (西諸県)  
 住所 高原町 氏名 鳥丸 利治  
 作物名 エンバク、コンモンベッチ混播  
 反 収 一三〇〇貫 (四、八五三キ)  
 播種日 三十三年九月十五日

昭和 33 年度共進会 飼料作物 1 等 1 席 (西諸県)

住所 小林市 氏名 鶴野 暎助  
 作物名 イタリヤン、ラデノクロバー、レーフ交互作  
 反 収 1,200 貫 (4,500 kg)  
 作物名 エンバク、ベッチ混作  
 反 収 1,250 貫 (4,688 kg)  
 播種日 33 年 9 月 6 日



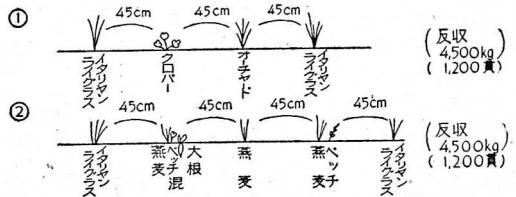
昭和 32 年度共進会 飼料圃優等賞 (北諸県)



註 ①夏作はトウモロコシ 2 反、落花生 1 反、甘藷 3 反、その他、スーダングラス、青刈大豆、カウピーを作付して殆ど年間青刈飼料を自給している。  
 ②甘藷蔓は殆ど利用している。  
 ③サイロの材料は玉蜀黍、落花生、カウピーが大部分で栄養価の高いものを混合している点非常によい。

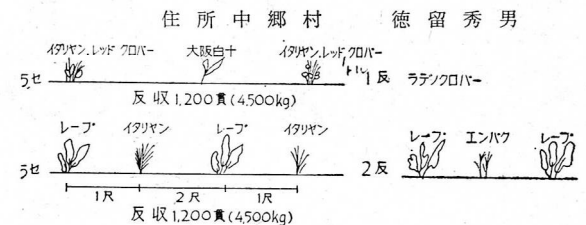
昭和 32 年度共進会 飼料圃 1 等賞 (北諸県)

住所 都城市 徳留 一夫  
 自給飼料圃の作付状況



註 年間カンランを主体とする飼料自給計画

昭和 33 年度共進会 飼料圃優等 (北諸県)



昭和 32 年度共進会 飼料圖優等 (北諸県)

住所 山口村 木上 臣 男  
 作物名 エンバク、コンモンベッチ混播 条間 90 cm 播幅 40 cm  
 反取 1,000 貫 (3,750 kg)  
 播種期 9 月下旬  
 堆肥 400 貫 (1,500 kg)



飼育管理の現況

一般に西南暖地の乳牛の耐用年数が短かいといわれているが、当地区においても乳牛は夏季節において疲労の度合が強いのは当然であるが(註 臨界気温ホル系で摂氏二三度九分より二六度七分、シャーシー種は二六度七分より二九度五分であるが、当地区において二七度以上の日が通算五十三日以上を数える)畜舎の構造上の欠点(舎内の気温および湿度が上昇し、通風の便がない。また糞尿が分蓄せられていない)加えて蚊蠅の発生侵入がほしいままにせられていることなど、全く悪環境に置かれていゝる。なかならず重大関心事は、栄養の面である。

飼料給与状況

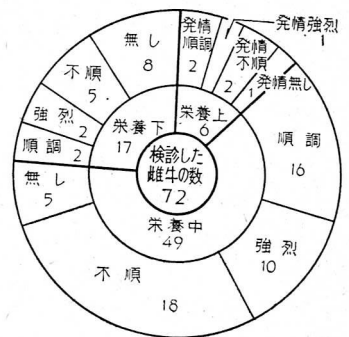
|      |           |        |
|------|-----------|--------|
| 粗飼料  | 青刈作物      | 59.17% |
|      | 青草        | 38.27% |
|      | 乾草        | 1.95%  |
|      | 稲藁        | 0.61%  |
| 濃厚飼料 | 糠類        | 60.46% |
|      | 大豆粕その他油粕類 | 15.84% |
|      | 穀類        | 12.39% |
| 配合飼料 | 11.31%    |        |

(濃厚飼料が粗飼料の 35.57%)

かがわれる。これらは夏期間にいえることであるが、冬期は比較的労働時間および飼料作物の量および種類も多いのでこの時期が現状においては夏期の補いをつくるつていゝる有様で、問題は夏季の飼育管理の改善が最も重要であると思われる。

すなわち当地区の夏期間の飼料給与をみると、別表の通りである。一般に九州の乳牛は栄養価の三〜四割を粗飼料から摂っており六〜七割は濃厚飼料に依存しているといわれているが、当地区は六〜七割の濃厚飼料すら与えられていないので全くの栄養失調の傾向がみられている。従つて妊娠障害ということも大きくクローズアップしてくる訳で、これらを昨年度一斉検診より見た場合下図の通りで、栄養不良よりくる妊娠障害が明らかに

栄養並に発情状況 (西諸県郡市)



今後の在り方

これらの現況より判断すれば道遠しと雖

牧草地

秋に行われる手入

(イ) 追肥  
 草の秋に行われる手入れとしては、追肥、追播、掃除刈り、飼肥料木の植込み、枝切り、利用の適時切上げなどがあります。

(ロ) 追播  
 秋の追肥は主として越冬を良好にし、翌春の萌芽を旺盛にするために、草の越冬養分貯蔵を良好にするの目的であります。従つて寒冷地の冬枯れの心配のある地帯では、従つて寒冷地の冬として施用します。石灰もまた積雪地で春の融雪水で流亡するおそれのある地帯以外には秋に施用します。

(ハ) 掃除刈り  
 不食草や、野草の優占草などはなるべく早い時期に刈取り、草を弱らせると共に種子の落下を防ぎます。またこの不良草の抑圧のためには殺草剤を使用したり、刈草、ムシロなどで庇陰して光線を甚しく不足させて弱らせることも行われます。

(ニ) 飼肥料木の植込み、枝切り  
 秋は植樹の好季節です。飼肥料木の植込みや截枝林、またはその他の草地林の枝切り間伐も行い、翌春のために備えます。

(ホ) その他  
 草地利用の切上げも秋の管理としては大切なもので、放牧地や採草地で述べたように少なくとも初霜の一ヵ月前位に切上げるようにします。また排糞の処理も秋の中に待つておくべきであり、また積雪地帯では冬期間の鼠害防止にも注意しなければなりません。

も決して悲観するには至らない。なきねはならぬことは多く、しかも酪農経営では、その因果関係が極めて密であるので、凡てを実施するのが肝要であるが、現実の問題として草作りへの転換がより焦眉の急であることに気が付く、霧島山麓には眠れる宝庫としての草地あるいはおよそ九、四〇〇町歩を有しておりこれを開発利用することは生産費の削減に大きな役割を果し、偉大なる乳と蜜の流れる里、酪農郷への実現第一歩となるろう。